

令和3(2021)年「正覚寺報」1月号

お知らせ

歳が明けるというのに、コロナは、なかなかおさまりをみせず、東都近隣の感染数増加が気になります。驚いたことにそれとはかけ離れた当県までが昨今増加の兆しを見せています。

私達も、年末年始の集まりはできるだけこじんまりと、身体は温め、話し合いに際してはきちんとマスクをすることに心がけて参りましょう。

記

修正会(元旦会)(元旦(金)午前零時)

除夜の鐘を突き終って、本堂で讃佛偈を上げ新年のご挨拶を申しませう。恒例の午前七時からのご挨拶は割愛させて戴きます。

仏教婦人会新年会(1月16日(土)13時)

佛壮総会(1月17日(日)18時)、役員会(19時)

初講(1月31日(日))午前10時

一年を振り返って

旧年中の忘れ得ないできごとは、報恩講に不死川昌史布教使を布教使としてお迎えでき、一度は必ずお呼びしたいと思ってきた永年の宿題が果たされたことが一つであり、逆に、高島組通安寺報恩講に住職が出講させて戴いたことであり、五年来ご指導に与ってきた大田利生和上の仏説無量寿経勉強会が年末に終わりを告げたことです。

通安寺への出講は、二年前に住職継職された新住職の御発案とあって、このときを逃してはならじと、想い出一杯のご法義をお持ちしお話させて戴いて参りました。

人は例外なく阿弥陀如来のご本願の思し

召しに遇い、二河白道を歩ませて戴くのだということとそのエピソードを引いてご紹介させて戴き、どのようにして如来様のお喚び声に遇わせて戴くのかを具体的にご紹介させて戴いて参ったことです。

如来様から賜ったお念仏を称えさせて戴くとき直ちに聞こえて下さる南無阿弥陀仏こそは、「汝一心正念にしてただちに來たれ、我よく汝を護らん」との如来様のお喚び声であり、お喚び声をお聞かせ戴くとき、衆生は浄土往生間違いなき身とせしめられる信心を賜るのだという御法話を緇(ひもと)いて参りました。

報恩講が終ってから、爾来、毎朝のように御法話を振り替えらずには居れず、その都度、新たな発見に恵まれて参りました。

こうして、十数年来の「大行」のお話しは漸くにして一つの纏まりを告げることになりましたが、これからはこれと双璧を形作る「大信」への取組みです。

「大信」について不肖自身「信心には疑いの蓋を差し挟んではならない」との伝統に影響を受けるばかりでしたが、これからは、賜った大行の実践であるメディテーションで目覚めることにより、聞名せしめられるのだとご案内できることでもあります。

大田先生の「広大会」開催のご縁は、第十八願の「乃至十念」には声が含まれる。「スムリティ」がサンスクリット語源だと龍谷大学大宮学舎本館講堂の階段下で和上から直接お聞かせ戴いたことに起因していました。合掌。